

かけはし

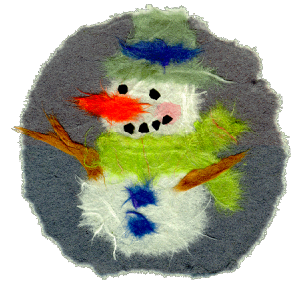
平成29年12月 1日

ふるさと智恵文に誇りをもつ輝く智小っ子を「地域ぐるみ」で育てましょう

今、子どもの姿を見つめて

校長 川崎 直人

いよいよ師走。ここ智恵文にも厳しい冬がやってきました。12月は2学期のまとめのときです。子どもたちは、集中して学習に取り組む頑張っています。学校では秋から基礎学力の向上を目指して、朝の「のびやかタイム」を計算、漢字に特化して全校での取組をスタートさせたり、家庭学習の見直しを図ったりしてきました。



「目標としてきた力がついたか」「思いやりの心が育っているか」など、子どもの姿をよく見つめ、成長したところをほめ、もう少しのところは励まし、さらに確かな力と心を育ててやりたいものです。

子どもの心を育て、力を伸ばすために大切なこと、それは「自信」をつけることです。子どもたち一人ひとりには、頑張ったことやできるようになったことがいろいろあります。子どもの姿をよく見つめ、どんな小さなよきも、ほめて認めてやることで「自信」につなげていきたいものです。特に継続して取り組み、習慣化してきていることは大いにほめてあげてください。「自信」は次への意欲はもちろん、さらなる力の発揮につながります。何よりも自分自身(いのち)を大切にすることにもなるのです。

低学年の子どもたちは膝のうえに抱いて、中高学年の子どもたちは手を取って向かい合いながら子どもの成長に対する親の喜びを、「〇〇ができるようになってすごいね」などの温かい言葉を添えて、子どもの心に届けたいものです。12月、子どもの「自信」につなぐ「ほめる言葉」のプレゼントをしましょう。きっと、笑顔いっぱいに、「いのち」を輝かせることでしょう。

先日、テレビで活躍している「尾木ママ」の講演を名寄で聞くことができました。その中で「聴く力」という話がありました。子どもの話を心で受け止めて聴いているか。共感しながら聴いているか。話を聴いた後に「大変だったね」などの受容の言葉をかけているかなど、子どもたちには、「ありのままに今を輝かせること」が大切であるとのことでした。忙しい中ですが1日1回くらいは子どもの話を聴いてあげてください。